

H20全国学力学習状況調査結果・考察及び今後の対応

調査結果

1 本校、市、県及び全国の平均正答率一覧

教 科	本校 平均正答率 %	沖縄県 平均正答率 %	全国（公立） 平均正答率 %	全国（公立） 正答率との差
国語A	71.2	67.8	73.6	-2.4
国語B	59.1	54.0	60.8	-1.7
数学A	57.2	49.6	63.1	-5.9
数学B	39.0	38.0	49.2	-10.2

2 領域別・観点別・解答別及び出題形式別からみる結果分析

(1) 領域別

領 域	国語A	国語B
	全国との差	全国との差
国語への関心・意欲・態度	-2.6	-0.3
話す・聞く能力	-0.1	
書く能力	-4.8	-0.1
読む能力	+0.6	-1.7
言語についての知識・理解・技能	+4.3	-3.2

領 域	数学A	数学B
	全国との差	全国との差
数と式	-6.4	-10.2
図形	-4.6	-15.9
数量関係	-6.8	-8.3

(考察)多くの領域で市平均を上回っているが、全国と比較するとほとんどの領域が下回っている。

国語Aにおける「言語についての知識・理解・技能」領域については、基本的事項の定着が良い傾向を示している。数学Bについては、全領域について細かく分析していく。

(2) 観点別分析

関心・意欲・態度（「はい、どちらかといえばはい」と答えた生徒（％） 生徒質問用紙から抜粋）

質問内容（ ）は質問番号	本校	全国（公立）
(50) 国語の勉強は好きか	43.9	55.2
(51) 国語の勉強は大切か	88.5	87.3
(55) 国語の授業で学習したことは将来役に立つと思うか	83.0	79.6
(60) 文章で書く問題は最後まで解答を書こうと努力したか	93.8	93.3

質問内容	本校	全国（公立）
(61) 数学の勉強は好きか	56.1	52.8
(62) 数学の勉強は大切か	73.8	78.1
(67) 数学の授業で学習したことは将来役に立つと思うか	64.6	65.4
(65) 解き方が分からないとき諦めずにいろんな解法を考えるか	67.7	63.4

(考察)

国語、数学とも、「将来役に立つと感じている」及び「問題を最後まで解こうとする意欲がある」と答えている本校の割合が全国と比較しても良い傾向にある。この結果を今後の教科経営に生かしたい。さらに教科学習が「好きになる」、「大切と考える」生徒が増えるよう、毎時間「身につけるべき事項」の明確化と「まとめ、振り返り」の時間をきちんと確保し、課題の与え方など工夫が必要である。

見方・考え方，表現処理及び知識理解（平均正答率）

観点別	国語A		国語B	
	本校	全国（公立）	本校	全国（公立）
話す・聞く能力	80.0	80.1		
書く能力	50.4	55.2	46.6	46.7
読む能力	71.6	71.0	59.1	60.8
言語についての知識・理解・技能	70.9	75.2	57.3	60.5

観点別	数学A		数学B	
	本校	全国（公立）	本校	全国（公立）
数学的な見方・考え方			37.1	47.0
表現・処理	56.5	62.5	51.5	63.1
知識・理解	57.9	63.6		

(考察)

- (1) 国語 A問題における「書く能力」「言語についての・・・」の領域で基礎、基本事項の定着を繰り返し図る必要がある。
- (2) 数学 「表現・処理」の領域で全国との差が知識（A問題）で - 6ポイント、活用（B問題）で - 12ポイントとなっている。「数学のおもしろさ」「発見の感動」を授業に組み込みながら指導方法工夫改善を図る必要がある。

問題形式別 (平均正答率%)

解答形式	国語 A		国語 B	
	本校	全国(公立)	本校	全国(公立)
選択式	69.1	71.3	67.4	70.3
短答式	74.7	77.4		
記述式			46.6	46.7

解答形式	数学 A		数学 B	
	本校	全国(公立)	本校	全国(公立)
選択式	55.6	61.8	45.2	55.2
短答式	58.5	64.8	52.3	62.5
記述式			24.9	35.3

(考察)

数学 B については、2 - (1)、2 - (2) と同様に全項目が全国との差が 10 ポイントついている。数学の基礎・基本事項をしっかりと定着させ、それがどんな場面でどう活用されるかについて、生徒に理解させる必要がある。

3 正答率からみる結果分析 (全国との差が大きい項目順)

【国語 A】

設問の概要	本校	全国との差
(6-1) 漢字を書く(将来のことは <u>ヨソク</u> できない)	36.6	-26.6
(6三キ) 適切な同音異義語を選択する(中学生を対象に調査)	54.2	-11.8
(6五) 見やすく書かれている伝票の説明として適切なものを選択する	33.6	-11.5
(3一) 意見文に対する評価として適切なものを選択する	29.8	-9.9

【国語 B】

設問の概要	本校	全国との差
(3二) グラフから読み取れることの説明として、適切なものを選択する	45.8	-7.8
(3一) レポートの内容についての適切な説明を選択する	73.3	-5.0
(1二) 資料中の文章表現の仕方についての適切な説明を選択する	62.6	-4.8
(2四) 登場人物が大切にしていると考えられることを四字熟語と関連づけ、80字以上120字以内で書く	57.3	-3.2

【数学 A】

	単元名	本校	全国との差
(確率)	場合の数を求めるための正しい樹形図を選ぶ	48.9	-25.4
(平行と合同)	1組の平行線に1つの直線が交わる時、和が180°になる2つの角を選ぶ	61.1	-18.1
(式の計算)	$2 \times (-3)$ の計算	53.4	-18.0
(式の計算)	$3a + 4b$ で表される事象を選ぶ	13.7	-17.7
(一次方程式)	数量の関係を一元一次方程式で表す	43.5	-16.1

【数学 B】

	単元名	本校	全国との差
(平行と合同)	2つの線分の長さが等しいことを三角形の合同を利用して証明する	21.4	-21.9
(平行と合同)	辺の長さが等しいことを証明する際に、その辺を含む三角形の合同を示せばよい理由を選ぶ	46.6	-16.7
(式の計算)	2桁の自然数と、その数の十の位の数と一の位の数をいれかえた数との差について予想した事柄を表現する	36.6	-11.4
(式の計算)	2桁の自然数と、その数の十の位の数と一の位の数をいれかえた数との和が11の倍数になる説明を完成する	27.5	-11.0
(一次方程式)	数量を求める際、別の数量に置きかえて個数を求める方法に共通する考えを選ぶ	39.7	-10.1

(考察)

【国語A】

・漢字の読みの正答率の全国との差は、最大でも3%下回っているにとどまっているが、「漢字の書き取り・同音異義語の選択」は全国との差が26.6%、11.8%と大きく下回っている。漢字の習得・学習の方法のさらなる工夫が必要である。

・問われている事柄を文章の中からの確につかむことができた生徒が全国平均と比べて多かった。

【国語B】

・A問題に比べ、全国との差はそんなに大きくないが、大部分は、正答率そのものも低い。

・グラフや文章を見て、そこから分かることは何か、また、問いに沿って内容をどうとらえるかということが出来ていない。グラフや文章の全体を見て考えるのではなく、一部のみを見て判断し誤答が多くなったのではないかと考える。

【数学A】

・全国との差が最も大きいものは確率の「樹形図の意味やその使い方」を問う問題である。指導する時期が2学期終了間際で指導を急ぎすぎた懸念がある。また、他の問題で授業時は理解していても定着していないという課題がある。

【数学B】

・証明問題の落ち込みが大きい。生徒の最も苦手とするところだが、論理的に物事を説明すること

は数学の大切な要素である。

- ・ 普段の問題と出題傾向が違うため、問題の意味自体を把握できてないことが、正答率の低さにつながっている。今後は既習事項定着の手だてや家庭学習・個に応じた課題・学び方のアドバイス等について検討していきたい。また、耳慣れない言葉や文章への苦手意識をなくすため、問題をじっくり読み、考えさせる訓練も必要である。

4 無解答率からみる結果分析（全国との差が大きい項目順）

【国語 A】

設問の概要	本校	全国との差
(6-1) 漢字を書く(将来のことは <u>ヨソク</u> できない)	23.7	+8.6
(6-3) 漢字を書く(一定の温度を <u>タモツ</u>)	19.1	+6.6
(6-2) 漢字を書く(富士山を <u>ハイケイ</u> に写真をとる)く	14.5	+4.4
(6-2) 漢字を読む(このホールは <u>音響</u> 効果が良い)	6.9	+2.8

【国語 B】

設問の概要	本校	全国との差
(3-2) グラフから読み取れることの説明として、適切なものを選択する	3.1	+1.1
(3-1) 資料中の文章表現の仕方についての適切な説明を選択する。レポートの内容についての適切な説明を選択する	2.3	+0.7
(1-2) 資料中の文章表現の仕方についての適切な説明を選択するレポートの内容についての適切な説明を選択する	0.8	+0.3
(2-3) 登場人物の行動を読み取り、付箋に整理して書く。	22.1	+0.2

【数学 A】

単元名	本校	全国との差
(確率) 赤玉3個、白玉2個の中から玉を1個取り出すとき、その玉が赤玉である確率	17.6	+7.2
(一次方程式) 数量の関係を一次方程式で表す反比例	26.0	+6.9
(比例と反比例) 比例のグラフ上にxの変域に対応する部分を図示する	20.6	+5.1

【数学 B】

単元名	本校	全国との差
(平行と合同) 2つの線分の長さが等しいことを三角形の合同を利用して証明する	47.3	+18.6
(1次関数) 表やグラフのデータをもとに富士山の6合目の気温を求める方法を説明する	71.0	+11.2
(式の計算) 2桁の自然数と、その数の十の位の数と一の位	38.9	+11.2

の数をいれかえた数との和が11の倍数になる説明を完成する		
(式の計算) 2桁の自然数と、その数の十の位の数と一の位の数を入れかえた数との差について予想した事柄を表現する	47.3	+10.1

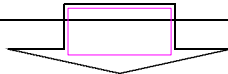
(考察)

【国語】

- ・漢字の書き取りの無解答率の高さが目立つ。間違いが多かったのではなく、書けない生徒が多かったということなので、本校の大きな課題の一つとして、漢字力の定着に取り組んでいきたい。
- ・情報、条件をもとに、求められている文章にまとめることを不得意としている生徒が多いということがわかる。全国平均は本校よりも若干無解答率が高い結果となっているので、全国的にも同じことが言える。文章を読み取る力をさらに文章を分析し、まとめる力へを伸ばしていく。

【数学】

- ・全国との差が最も大きいものは、正答率と同様で数学Aについては確率、数学Bについては証明問題である。特に数学Bの全国との差が大きい。問題が不慣れな長文形式なので、その中から重要な事項を読み取ることができなかったことや、問題をじっくり読み込むこともしないまま手をつけなかった生徒も多かったことが予想される。今後は「問い」「答え」という形式的になりがちな授業展開ではなく、授業の中で問題を読み込みながら論理的思考を育てるような場面設定をする必要がある。



実践事項

(国語科)

- (1) 条件作文の書き方について時間を確保しきちんと指導し、その後、作文に取り組みさせている。提出後教師は、「赤ペン支援」をおこない、今後の条件作文を書く意欲が高まるようにしている。
- (2) 定期テストには、「条件作文」の設問を毎回出題している。(3年)
- (3) 小学校からの漢字一覧を作成し、自主学習で取り組ませている。
- (4) 平成20年度第2学期より授業の最初の3~5分を活用して「漢字小テスト」を実施し、確かな定着を図る。

(数学科)

- (1) 授業はじめの5分間に、「ふりかえりの時間」とし、基礎的な計算練習をおこなう。
- (2) 学力定着にむけ、数学科の家庭学習を実践する。
 - 1, 2年 「3題帳」の取り組み(教科書の問題から各自3題選択し毎日実践する。授業時に点検、評価する)
 - 3年 「自主学習」の取り組み(自習学習ノートに数学の家庭学習をする。1頁ごとにポイントをあげ、学習意欲を高めるための支援をする)
- (3) 定期テストに既習事項の基礎・基本問題を設問として組み入れることで、確実に定着を図る。
- (4) 個への対応として、習熟の程度に応じた課題を教科で準備し支援する。

5 学習状況調査からみる結果分析（「はい、どちらかといえばはい」と答えた生徒（％））

【学習状況からみる結果分析】

質問内容	本校	全国（公立）
（１）朝食は毎日食べてますか	93.1	91.9
（６）難しいことでも失敗をおそれないで挑戦してますか	66.2	61.9
（７）自分には良いところがあると思いますか	66.2	60.8
（８）将来の夢や目標を持っていますか	73.1	70.7
（２５）家で自分で計画を立てて勉強してますか	23.8	34.2
（２６）家で学校の宿題をしますか	52.3	81.3
（２８）家で学校の授業の予習をしますか	16.2	28.4
（２８）家で学校の授業の復習をしますか	33.1	39.6
（３０）学校で好きな教科はありますか	80.0	77.1
（４８）普段の授業で自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか	82.3	74.4
（４９）テストで間違った問題について、間違ったところを後で勉強してますか	44.6	52.9
（５３）読書は好きですか	68.4	69.0
（７２）国語Aの解答時間は十分でしたか	80.7	89.8
（７３）国語Bの解答時間は十分でしたか	52.3	68.1
（７４）数学Aの解答時間は十分でしたか	80.7	89.0
（７５）数学Bの解答時間は十分でしたか	46.2	68.6

（考察）

- ・ 7割の生徒が目的意識を持って学校生活をおくっていることは、良い傾向である。
- ・ 家庭における学習習慣の定着、さらにこどもに「学ぶ意欲が向上する」ような予習、復習のありかたを学年、各教科で再度確認、指導する必要がある。
- ・ 各定期テストの事後処理のあり方を検討する。（例）【なぜ間違ったか、どこに課題があるか、等を明確にし、次の対策及び目標を設定させる。】

今回の学力状況調査から見えてきた本校の課題等

- （１）A、B問題とも平均正答率が全国と比較し低い。特にB問題（活用）については、数学で全国平均より10ポイント下回っている。
- （２）国語 慣用表現等の生活と密着した言葉を使うことに課題がある。
まとまった文章を読み取り自分の考えをまとめて明確に伝えるように書くこと。
- （３）数学 数量や図形の性質を根拠に基づいて説明したり書いたりすることに課題がある。
あたえられた情報を分類・整理し、処理することに課題がある。
- （４）各教科における生徒の学習意欲や学習達成状況の掌握と指導方法工夫改善
- （５）学習を支える力（生活リズム、家庭（課題）学習のありかた等）の育成

- 課題に係る対応策（具体的な授業改善例）

・(1)(2)(3)について

「教えて考えさせる」授業への転換・・ア 知識や技能事項の繰り返しの強化(確実な定着)
イ 全教科における読解力の育成を図る授業の実践

全教科で「一定時間内に文章を読み、そこから得られる情報を適切に処理することができる力を身につけさせる」指導の充実を図る。

・(4)について

平成15年度より英語科が実践している「英語アンケート」を参考に各教科で学習意欲や教科に対する生徒の実態を見取るアンケートを作成し、分析することで指導の工夫改善に生かす。

各種刊行物を活用し、指導方法工夫改善を実践する。

ア 国、数、英の県達成度テストの過去問題を実施し、結果を教科会で分析し、落ち込みの部分の指導計画を作成し、指導を強化する。教科毎の達成度テスト分析冊子を活用する。

イ 県教委発行「確かな学力支援プラン」を活用し、指導方法工夫改善を図る。

ウ 国立教育政策研究所刊行物の活用

(ア)平成15年度教育課程実施状況調査及び結果分析(国、社、数、理、英)

(イ)平成19年度特定の課題に関する調査及び結果分析(社会)

(ウ)PISA2006年調査及び結果分析(中学校理科の課題)

・(5)について

学力向上対策実践事項とタイアップしながら進める。

県教委作成「家庭学習の手引き」の読みあわせと実践を行う。